

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1	前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 「学校運営」については、保護者アンケートでもおおむね良い評価をいただいているが、「施設・設備」において評価が低い。遊具の老朽化等に対処するため、修繕、移設を調整中である。 「教育活動」については、「基礎学力の向上」「心の教育」については十分に成果が上がっているとは言えない。職員の授業力を向上させるための実効性のある手立てを考え、実践していく必要がある。今年度成果が上がった取組については次年度も継続していく。校務や教育活動を見直し、より効率よく成果を上げる方法について、教職員間で協議しながら実践へとつなげていく。
2	学校教育目標	生きる力を身に付け、学校・家庭・地域の思いを受け継ぐ ときわっ子の育成
3	本年度の重点目標	ア、確かな学力を育む教育活動の推進 イ、豊かな心を育む教育活動の推進 ウ、健やかな体を育む教育活動の推進 エ、特別支援教育活動の推進 オ、幼・保・小・中連携の推進 カ、時代のニーズに対応した教育の推進 キ、家庭・地域との連携強化 ク、働き方改革の推進

4	重点取組内容・成果指標	中間評価	5	最終評価	学校関係者評価	主な担当者
---	-------------	------	---	------	---------	-------

(1)共通評価項目							主な担当者			
重点取組			中間評価		最終評価					
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)		実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上。(教職員アンケート)	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	・学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師は、60%だった。実態に即した成果指標を再設定し、指標達成教師80%を目指す。	B	・学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師は、60%だった。	B	・成果指標80%達成を期待する。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任 ・指導方法工夫改善担当
	○基礎学力を含む知識及び技能の定着を図る。	○市販テストにおける「知識及び技能」の得点が、全国平均を上回る児童が70%以上。 ○保護者アンケートの基礎学力向上の成果で「そう思う」回答50%以上。(保護者アンケート)	・テストごとに達成度合いを調べ振り返る。 ・各学級での取組を保護者に保護者面談や学級通信等で周知する。	B	・市販テストにおける「知識及び技能」の得点が、全国平均を上回る児童は71%だった。 ・保護者アンケートの基礎学力向上の成果で「そう思う」回答は37%だった。	A	・市販テストにおける「知識及び技能」の得点が、全国平均を上回る児童は82%だった。 ・保護者アンケートの基礎学力向上の成果で「そう思う」回答は54%だった。	A	・保護者が学力向上の成果を認めるようになったことは良い事。しかし、もっと成果を上げてと求めている保護者もいる。 ・全国平均を上回る児童80%は素晴らしい。教員の細やかな振り返りと保護者への周知が徹底されたと考えられる。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○豊かな心に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした児童が80%以上。(児童アンケート)	・人権集会や平和集会の実施及び実施後の児童の振り返りの考察 ・週1回の道徳の授業の充実 ・道徳強化週間の設定(全校道徳、授業公開等)	B	・平和集会実施後の感想において、全児童は、生命の尊重し、平和を願う気持ちを記していた。 ・強化週間を設定したことで、職員と児童の意識の向上につながった。保護者の学校の取組に対する評価がまだ低いので、情報発信や工夫した取組を継続したい。	A	・人権集会実施後の感想より、多くの児童が決めつけやうわさによって人を傷つけることやそれを止めるための勇気ある行動の大切さに気づくことができた。 ・保護者の学校の「心の教育」に対する評価が昨年度より15%上がった。また、職員の道徳科の授業に対する意識も向上してきた。本年度も「心の教育」に対する取組を継続していきたい。	A	・自分や友達を大事にする心を失わないで成長してほしい。 ・道徳の授業が実り、人権に対する関心も向上している。より深い「心の教育」を希望する。 ・子供同士の呼び捨てが気になる。	・道徳教育推進教員 ・人権・同和教育担当者 ・グループ学年主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめの防止等について、組織的対応ができていますと回答した教職員が80%以上。(教職員アンケート)	・いじめに関する職員研修を年に2回以上実施する。 ・毎月いじめに関するアンケート、学期に1回のQ-Rアンケートを実施し、児童の状況把握・早期対応に努める。 ・毎月の児童支援連絡会で、気になる事案等については全職員で共通理解を図る。 ・学期末に1回、教職員へアンケートを実施する。	B	・いじめに関する職員研修を、2学期に実施する。 ・いじめアンケートや、Q-Rアンケートを計画的に実施し、児童の状況把握・早期対応に努めることができる。また、毎月の児童支援連絡会で、全職員で情報を共有することができる。	B	・いじめに関する職員研修を、2学期に実施した。 ・いじめアンケートや、Q-Rアンケートを計画的に実施し、児童の状況把握・早期対応に努めることができた。	B	・人をばかにする態度や嫌がらせがない生活づくりを行ってほしい。 ・いじめは目に見えない分指導が難しいが、今後も防止に努めてもらいたい。	・生徒指導主任 ・教育相談担当 ・グループ学年主任
	○「ときわっ子体験活動」を中心とした郷土について学ぶ体験活動の充実	○生活及び総合的な学習の時間における体験活動を含む学習の実施前後にアンケートにて、「体験活動を通して、郷土について学びを得た」と考える児童90パーセント以上。(校内研アンケート)	・ときわっ子体験の場を設け、地域人材への児童の興味関心を高める。 ・生活及び総合的な学習の時間における体験活動を含む学習の実施前後にアンケートを取り、実感を考察する。	B	・新型コロナウイルス感染防止のため十分な活動ができなかった。 ・ときわっ子体験活動において、97%の児童が「体験活動が自分のためになった」と回答している。今後も、体験活動を中心とした郷土学習の在り方を研究し、種別活動の充実を図りたい。	B	・ときわっ子体験活動において、98%の児童が「体験活動が自分のためになった」と回答している。来年度も現在の社会的状況が続くのであれば、それに対応できる範囲での体験活動を工夫し、研究を推進する。	B	・早く従来の日常に戻ることを願っている。 ・体験活動の報告は児童が生き生きして書いて素晴らしい。 ・児童が自分づくりに役立っていると感じている。更に続けてほしい。	・特別活動担当 ・研究主任
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童95%以上。(児童アンケート) ○「好き嫌いをせず食べている」児童80%以上。(児童アンケート) ○「子どもと給食の話をする」保護者95%以上。(保護者アンケート) ○「子どもの食事のマナーについて注意している」保護者50%以上。(保護者アンケート)	・食育指導にあたっては、児童の食に関する実態を把握し、その実態に即した内容の指導をすることで、より興味・関心をひくものとなるように努めていく。 ・給食委員会の活動として、給食の月目標や季節や行事に関わる「食」についての情報を発信していく。 ・道徳科や学級指導等と関連させて、食の重要性や食に関わる人への感謝についての指導を行う。	A	・給食委員会の活動として、毎日、児童の食育標語と献立に関する情報発信を行い、「食」への関心を高めることができた。 ・93%の児童が「好き嫌いをせず食べることができ、98%の家庭では、食事のマナーや作法について教えることができていた。 ・後期は、委員会活動として児童の実態アンケートを取り、今後の食育指導に生かす。	A	・保護者アンケートにおいて体力向上・食生活習慣作りをしている肯定的な回答は97% ・保護者アンケートにおいて健康的な食生活を身に付けさせるよう心がけている肯定的な回答は96%であった。 ・児童集会や校門掲示において、食事のマナーや健康的な食への指導を行った。 ・調理員との交流やお礼の手紙を書くなどの取り組みで、食に関わる機会とした。	A	・「給食」は、児童も保護者も関心が高い。学校、家庭ともに楽しく食育がなされることを期待する。 ・自分たちが育てた野菜やもち米が給食に取り入れられたりすることは、体験活動とつながり実感として残ると思う。 ・即席料理の開発で、高脂質の食事が当たり前前の状態になっている家庭もあるのでは。 ・保護者アンケートの96%、97%を糧とみなして、引き続き指導をお願いしたい。	・給食・食育担当 ・保健主事 ・保健指導担当
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・週1回の定時退勤日を設定する。 ・月半分の時間外勤務を集計して知らせ、1月の業務のペース配分を意識させる。	A	・毎週金曜日を定時退勤日とした。 ・上半期の平均残業時間は25時間41分で、教育委員会規則に掲げる月45時間以内であった。	A	・定時退勤日に退勤予定時刻までに退勤した職員は47%であった。業務の見直しをしていきたい。 ・下半期の平均残業時間は20時間02分で、教育委員会規則に掲げる月45時間以内であった。	A	・前日より残業時間が短くなっている。 ・一つの指標ではあるが、残業時間の多少で評価することに疑問を感じる。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○学校行事や会議等の精選・効率化の推進	○設定時間内に終わる会議を70%以上。	・行事の目的を明確にして提案し、内容をスリム化する。 ・会議資料は2日前に教務が集約し時間配分をする。口頭連絡で済むものは、校務シェア回覧板を活用する。	A	・行事の変更が多かったため、目的をより明らかにして内容をよく吟味して実施するようになった。 ・校務シェア回覧板の利用が多くなり、会議の時間削減につながった。設定時間内に終わった職員会議67%。	B	・行事の内容は、コロナの影響もあり、必要最小限で行い教育効果を損なうことはなかった。 ・会議資料を2日前に準備することは定着しなかったが、連絡事項を校務シェア回覧板で行うことは定着した。設定時間内に終わった職員会議60%であった。	A	・工夫された学校運営がなされている。 ・時間内で終わることも大事だが、内容を損なわないようにしてほしい。 ・教員がアイデアを出し合って、効率的でより良い内容になった行事もあった。	管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							主な担当者			
重点取組			中間評価		最終評価					
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)		実施結果	評価	意見や提言
○特別支援教育活動の推進	○特別支援教育研修及びケース会議の充実	○(学校独自成果指標・任意) ・研修後のアンケートで、特別支援に関する専門性が向上したと認識する教員70%以上。	・交流学級との連携を図り、教師の専門性を高めるための特別支援に関する研修会の実施 ・ケース会議の実施、情報共有	B	・卒業後の進路についての研修会を実施。12月に個別の支援計画の次年度に向けての研修を行う予定。 ・交流学級からの情報を得て、ケース会議を実施した。次年度に向けて、新規に支援が必要な児童の把握を行い、市の支援会議につなげた。	B	・職員研修(8月)、特別支援学校による巡回相談(年3回)、ケース会議(随時)を実施し、特別支援教育の充実を促した。学校評価の教職員アンケート結果では、全職員が支援体制づくりと個別の支援に対して「達成感」をおおむね達成できた」と回答した。	B	・今後とも子供たちの身になって、支援をしてほしい。	・特別支援教育コーディネーター
○時代のニーズに対応した教育の推進	○情報モラル教育の充実	○(学校独自成果指標・任意) ・情報モラル教室後のアンケートで、「個人情報取り扱いに気を付けるべき」と回答する児童70%以上。	・情報モラル教室を3~6年生を対象に行う。 ・道徳科の情報モラルを題材にした教材を、各学級で取り扱う。	A	・アンケートの結果では、90%以上の児童が個人情報取り扱いに注意すると回答した。 ・情報モラルを題材にした授業の実施については、呼びかけている。	A	・情報モラルを題材にした道徳科の授業については未実施の学級もあるが、引き続き呼びかけており、全学年が年度内に実施予定である。	A	・いじめ問題にもなりかねないので、小学生の時から個人情報の取り扱いについて学ぶのは、今の時代に必要なことである。	・情報化推進リーダー ・生活指導担当
○家庭・地域との連携強化	○育友会活動の充実	○(学校独自成果指標・任意) ・「育友会活動に積極的に参加している」と回答する保護者70%以上。(保護者アンケート)	・各部の活動について内容を予め伝えて関心を持ってもらう。 ・引継ぎ事項をデータ化し、次の役員に引き継ぐ。	B	・「育友会活動に積極的に参加している」とアンケートで回答した保護者は、55%であった。 ・今年度の活動を各部で記録されている。	B	・「育友会活動に積極的に参加している」とアンケートで回答した保護者は、62%とやや増加した。制限はあるが保護者が参加する学校行事を戻しつつあるためだと思われる。 ・専門部活動の内容をデータで引き継ぐことができた。	B	・保護者自身が70%以上に向けて努力する必要がある。	・育友会担当
	○防災教育の充実	○(学校独自成果指標・任意) ・防災講座・集団下校後のアンケートで、「防災意識が高まった」と回答する児童70%以上。	・地域消防団を講師とする防災講座を全校児童を対象に行う。 ・定期的ほか、警報発令時に集団下校引率を行う。	A	・防災講座・集団下校後のアンケートで、「防災意識が高まった」と回答する児童は、90%を超えた。	A	・防災講座・警報発令時は、校内放送で注意喚起を行い防災意識の維持を図ることができた。 ・警報発令時に、保護者に直接引き渡す下校を実施した。	A	・橋小ならではの防災対策がとられている。 ・繰り返しの防災教育が必要である。 ・児童の防災意識の高さに感心した。	・安全教育担当

5	総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <p>・学校評価のアンケートでは、全体的に中間評価よりも最終評価の方が高評価となっている。感染症対策のため、行事の見直しを行い目的や方法について丁寧に知らせてきたので、学校の方針をよく理解していただいた結果であると考え。臨時休業に備えて、リモート授業にも対応できるように体制づくりをしたことが、家庭での自主学習の取組とICTの活用アップにつながった。 ・志を高める教育として掲げている「ときわっ子体験活動」については、90%以上の児童が、学習した内容が自分のためになったと回答している。しかし、今年度は十分な体験活動ができず、「体験活動を通して、郷土について学びを得た」とは言い難い。次年度は、校内研の方法を工夫し、真に郷土について学びを得たと実感できる体験活動を計画・実施したい。</p>
---	--------------	---